

「メディアと情報資源：駿河台大学メディア情報学部紀要」投稿規定

(平成 24 年 4 月 11 日改正)

1. 投稿資格

1. 1 投稿執筆者は、原則として、本学メディア情報学部の教員とする。
1. 2 本学メディア情報学部の学生（大学院生を含む）は、教員の推薦により投稿することができる。

2. 申し込み方法

2. 1 申し込みは、所定の執筆申込用紙により行う。
2. 2 執筆申し込み用紙の提出先は、メディア情報学部機関誌委員会とする。
2. 3 執筆申し込み締切日は、各号の原稿締切日の 2 カ月前までとする。

3. 原稿について

3. 1 原稿は原則として未発表のものに限る。ただし、口頭発表のみを行った場合は、この限りでない。
3. 2 掲載する原稿の種類は、論文・研究ノート・資料・作品研究・授業研究とする。
3. 3 論文には、使用言語の要旨をつける。和文論文には、英文要旨をつけることが望ましい。
3. 4 原稿の採否は、メディア情報学部機関誌委員会において決定する。なお決定に際しては、外部の意見を求めることもある。また原稿の修正を求める場合もある。
3. 5 学生の投稿に関しては、別に定める「学生論文審査要綱」に基づいて審査を行う。
3. 6 原稿の執筆は、原則として「メディアと情報資源：駿河台大学メディア情報学部紀要」執筆要領による。
3. 7 原稿の提出先は、メディア情報学部機関誌委員会とする。

4. 編集と校正

4. 1 編集に関しては、メディア情報学部機関誌委員会に一任する。
4. 2 校正は、原則として執筆者の責任とする。
4. 3 校正の段階での大幅な加筆・修正は、不可とする。

5. 抜刷

抜刷は、一編につき 50 部とする。

6. 電子化及び Web 上での公開

本紀要に掲載された論文等は原則として電子化（PDF 化）し、本学のホームページや機関リポジトリ等を通じて Web 上で公開する。但し、電子化及び Web 上での公開について承諾を得ることが困難な場合には、該当論文等は非公開とする。

7. その他

原稿料の支払い、及び掲載料の徴収は行わない。

「メディアと情報資源：駿河台大学メディア情報学部紀要」執筆要領

平成7年6月改定 文化情報学部

平成23年3月改定 メディア情報学部

平成24年4月改定 メディア情報学部

1. 原稿について

(1) 原稿の作成

- a. 原稿は完全原稿とする。
- b. 原稿は横書きのワープロ原稿とし、和文は1行22字、39行、欧文は1行約90ストローク、39行で作成する。
- c. 原稿の記述順序は、論文の表題、著者名、要旨、キーワード、本文、英文論文表題*、ローマ字による著者名（名、姓の順で姓は大文字）*、英文要旨*、英文キーワード*（*は和文論文のみ）の順とする。

(2) 原稿の提出

- a. 原稿は、A4ハードコピー（上記字数、行数によるもの）と電子ファイルを提出する。
- b. 電子ファイルはMS-DOSの標準テキストファイルであることが望ましい。

(3) 原稿の字数（または枚数）

- a. 日本文の場合
 - ① 論文 30,000字以内
 - ② 研究ノート 30,000字以内
 - ③ 資料 20,000字以内
 - ④ 作品研究 20,000字以内
 - ⑤ 授業研究 20,000字以内
- b. 欧文の場合（1行90ストローク、40行を1ページとして換算した枚数）
 - ① 論文 17枚以内
 - ② 研究ノート 17枚以内
 - ③ 資料 11枚以内
 - ④ 作品研究 11枚以内
 - ⑤ 授業研究 11枚以内
- c. 図表
図表は上記字数（枚数）に含める。

(4) 論文要旨

日本語要旨は200-400字程度、欧文要旨は100-200語程度とする。

(5) キーワード

論文使用言語によるキーワードを付すことが望ましい。

2. 見出しのつけかた

原稿の章、節、項などの見出しは、ポイントシステムによって記載する。

第1章→1.

第1章第2節→1.2.

第1章第2節第3項→1.2.3.

3. 注のつけかた

a. 原稿末尾に一括し、通し番号を付す。脚注は設けない。

b. 本文中の注番号の位置は関連箇所の上肩とし、アラビア数字と半かっこを用いて、¹⁾、²⁾、³⁾、…のように表記する。

c. 本文中の注番号は、下記の例のように、句読点、引用符などと同時に用いられる場合には、それらの前におく。

(例) ……である¹⁾

……と指摘した²⁾。

4. 図表について

a. 図表は、本文中にその挿入箇所を指定する。

b. 図表には、図1、図2、…、表1、表2、表3、…のように連番をつける。

c. 図表の連番および表題は、表は上部、図は下部に記す。

5. 引用文献の記し方

他の文献からの引用は、本文に注をつけた上で原稿末尾に次のように記載する。

(1) 和文文献

a. 雑誌論文 《著者「論文名」『誌名』巻号 年 頁》

(例) 荒憲治郎「国際収支の構造と政策配合—再論」『駿河台経済論集』

vol. 3, no. 6 (1994), p. 35-53.

荒憲治郎「国際収支の構造と政策配合—再論」『駿河台経済論集』

3 [6] (1994), 35-53.

b. 図 書 《著者『書名』出版者 出版年 頁》

(例) 安澤秀一『資料館・文書館学への道記録・文書をどう残すか』吉川弘文館 1985 261p.

c. 論文集の一論文 《著者「論文名」『書名』編者 出版者 出版年 頁》

(例) 床次徳二「日米の安全保障と沖縄問題」『日本の安全保障』日米国際問題研究所編

鹿島研究所出版会 1964 p. 4-5.

(2) 欧文文献

a. 雑誌論文 《著者 “論文名” 誌名 巻号 年 頁》

(誌名は下線の代わりにイタリックでも可)

(例) White, A. “The profile investigation in the UK: The legal issues.”
Online CDROM Review, vol. 17, no. 4 (1993), p. 223-226.

(例) White, A. “The profile investigation in the UK: The legal issues.”
Online CDROM Rev. 17 (1993), 223-226. (通し頁の場合は、号数は省略してもよい)

b. 図 書 《著者 書名 出版地 出版者 出版年 頁》

(書名はイタリックでも可)

(例) Slavin, M. Atomic Absorption Spectroscopy. 2nd ed. New York,
John Wiley, 1978, 193p.

c. 論文集の一論文 《著者 “論文名” in 書名 ed. by 編者 出版者 出版年 頁》

(書名はイタリックでも可)

(例) Bertalanffy, L. von. “The history and status of general system
theory.” in Trends in generalsystem theory, ed. by Klir, G.,
New York, John Wiley, 1972, p. 47-50.

(3) 引用をくり返す場合の省略法

a. 前掲の論文・図書を再引用する場合

和文文献では 《著者 前掲書 頁》 《著者 前掲論文 頁》

欧文文献では 《著者 op. cit. 頁》

b. 再引用の論文が並列する場合

和文文献では 《同上 頁》

欧文文献では 《ibid. 頁》

6. その他

不明な点についての問い合わせ先は、メディア情報学部機関誌委員会とする。